

農業技術センター普及指導部作物関係情報

タイトル：収穫後の水田ほ場管理について

発信日：2021年10月28日

収穫後の水田管理が翌年の高品質米の安定生産に結びつきます。翌年に向けて以下の対策を行いましょう。

スクミリンゴガイ対策について

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)(写真1)の発生地域が拡大しています。発生していない地域でも水田や用排水路などにスクミリンゴガイの卵塊(写真2)に注意しましょう。発生している地域では次の対策を行いましょう。



写真1 スクミリンゴガイ



写真2 スクミリンゴガイの卵塊

<対策>

- ・ 貝や卵塊を発見したら、捕殺しましょう。貝は素手で触らないように気を付けます。
- ・ 越冬場所となる用排水路や柵(ます)の泥上げを行い、越冬している貝を破碎し、越冬密度を低下させます。
- ・ 寒期にロータリー耕を行い、貝を掘り起こして寒気にさらすとともに破碎します。作業速度を遅くしロータリーの回転数を高く、浅めに耕うんすると、効果が高まります。発生密度が高い水田では複数回行います。越冬個体が多い水口、水尻、水が溜まりやすい畦畔は、ロータリーが届かないので、鍬等を使い、貝を破碎しましょう。

イネ縞葉枯病対策について

イネ縞葉枯病はヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病です。感染したひこばえ(写真3)は、翌年の伝染源になります。

<対策>

収穫後、早急に耕うんしましょう。ヒメトビウンカの越冬場所となる畦畔雑草の除草を行い、個体数を減らしましょう。



写真3 イネ縞葉枯病に感染したひこばえ

獣害対策について

ひこばえはイノシシやシカなどのエサになります。

<対策>

獣害が発生しやすい地域では、収穫後早急に耕うんしましょう。

雑草対策について

○オモダカ・クログワイ（写真4）

十分に防除できなかった水田では土中にある塊茎が越冬し、翌年も発生します。

〈対策〉

寒期にロータリー耕を行い、塊茎を掘り起こすことで乾燥・凍結させて死滅させます。

○ノビエ

ノビエは夏から秋にかけて出穂・開花・結実して種子を土壤面に落下させ、翌年も発生します。

〈対策〉

冬期に耕うんを深く行い、種子を深く埋没させます。

○ナガエツルノゲイトウ

（写真5、6）

水田・河川（用水）・池沼で繁殖する多年生雑草（特定外来種）。植物体破片からも増殖するため、耕うん作業で広がってしまいます。相模川沿いに分布しています。

〈対策〉

水田内にまん延している場合は、水稲刈跡に茎葉処理剤を散布します。翌年以降に水稲用除草剤（初期剤や初中期剤）の体系処理で防除します。



写真4 クログワイ



写真5 ナガエツルノゲイトウ



写真6 ナガエツルノゲイトウの花

土作りについて

〈生わらの処理〉

水田に稲わらを刻んですき込む場合、生わらの分解を促進するために、石灰窒素 20 kg/10a を施用し土と混用します。

〈堆肥等の施用〉

水田に堆肥を施用する場合の基準は表1のとおりです。耕起を行った後に土壌診断を行い、診断結果に基づいて堆肥や基肥を施用しましょう。

施用時期は秋から冬にかけて行い、土中で分解を促進させます。ただし、湿田では水稲の根に障害を及ぼすガスが発生する恐れがあるため、堆肥の投入を行わないようにしましょう。

表1 堆肥の投入量投入量 (t/10a)

牛ふん堆肥	豚・鶏ふん堆肥	稲わら堆肥
0.5~1	0.5	1

注 堆肥化していない鶏ふんと豚ふんは肥料成分が高く、水稲の生育が不安定になりやすいので使用を避ける

問合せ先

農業技術センター
普及指導部作物加工課
平塚市上吉沢1617

TEL : 0463-58-0333 内線382~384

FAX : 0463-58-4254